

2020年2月5日

関係各位

野村アセットマネジメント株式会社
株式会社野村資本市場研究所

人生100年時代の投資家人生の姿を探る ～金融ジェロントロジー的視点からみる資産運用に関する調査～

野村アセットマネジメント株式会社（CEO兼代表取締役社長：中川順子）と、株式会社野村資本市場研究所（取締役社長：飯山俊康）は、「人生100年時代」と言われる個人の長寿化と社会の超高齢化における高齢者層の資産運用のあり方を探るため、「人生100年時代の投資家人生の姿を探る～金融ジェロントロジー的視点からみる資産運用に関する調査～」¹を実施しました。その結果をまとめましたので公表します。

今回の金融ジェロントロジー調査では、55歳以上89歳までの方を対象に、対面によるインタビュー調査（12名）を実施し、高齢投資家と直接向き合うことで、個々の実態を把握しました。そしてアンケート調査（2,371名）で定量的な傾向をつかみ、高齢投資家の姿を探ることを目的に実施しました。

調査結果の概要は以下のとおりです。

- 高齢層は老後に健康面の不安を感じる人が多い。他方、生活の満足度に負の影響を与えているのは、年金の減額、収入減少、資産枯渇等の経済的な不安である
- 資産の取り崩しを行っている世帯では、年間で金融資産の3%程度を取り崩している。当該世帯では、計画的な資産の取り崩しは3割に留まる
- 自己判断層においては、老後においても自己判断による証券投資を続ける意向だが、自分で投資判断することが難しく感じている様子も見られ、証券投資をやめて現金化する意向が比較的高い
- 長寿化する老後生活において、最期まで資産運用により、資産寿命を延ばすことの重要性が増している。その中で、金融機関は金融資産の一元管理などの資産管理サービスを提供することが求められている

調査方法の概要や主な調査結果は、以下のウェブサイトをご参照ください。なお本調査とあわせて、過去に野村アセットマネジメントが実施した調査結果についても、以下のウェブサイトに掲載しています。

<http://www.nomura-am.co.jp/corporate/surveys/>

以上

¹金融ジェロントロジーに関連した調査として、2018年1月公表「金融ジェロントロジーにおける資産運用に関する調査」、2018年12月公表「金融ジェロントロジーと人生満足度調査」に続いて3回目の調査実施（2019年8-9月）となります。